

4796号

伝書鳩

2010年12月17日

全国一般労組・全国協議会
安倍川製紙労働組合
静岡市葵区田町3-5-6
電話 054-271-7302
岩淵構内電話 340
abekawarouso@room.ne.jp

原発は温暖化対策の役に立たない 省エネなどの対策が有効

今年の文字は「暑」になったということですが、地球温暖化防止に向けた京都議定書の失効が近づく中、メキシコ・カンクンでの国際会議では、どっちつかずの結論が出たことが報じられています。

一方テレビでは原子力発電が発電時に二酸化炭素を出さないということが盛んに宣伝されています。

なぜ廃止しない当直
警備の増員で対応すべき
今年も年末年始の当直が行われる
よびです。
一つの組合が申し入れたことで
他の組合員や紙業の人たちまで駆
SHINJIRO Saitoを盾にす。
安倍川労組は「放火対策というこ
とだが、強盗等ならば当直者が危険」
とこのことも含めて廃止を申し入
れています。

「発電時」以外には二酸化炭素を出します

しかしこのテレビコマーシャル、当初は「原発は二酸化炭素を出しません」と始まったのに、クレームがついて「発電時に」と変えられたということはあまり知られていません。

原子力発電のエネルギーは濃縮ウランです。地中から掘り起こしたウランはそのままでは原発での使用はできません。多くのエネルギーをつかって、濃縮という作業が必要になるからです。さらに、良質なウランはかなり掘り尽くしてしまっていて、これから採掘されるウランは効率の悪いもののようなようです。つまり、原発を動かすためには他のエネルギーが大量に必要なのです。

スクラップにできない放射性物質

しかもこの濃縮ウランを使い終わると「核のゴミ」といわれる放射性廃棄物となり、何万年単位で放射能を出し続けるので、その管理にとなればとてつもなく高い電気になっています。ハードの部分である原発本体も寿命が短いのですが、取り壊せば核のチリが大気中に飛び散るので、安全を考えれば取り壊さず管理しなければなりません。

極端すぎる科学信仰

未来のエネルギーということが盛んに宣伝された原子力発電ですが、人類には「扱いきれない」モンスターであることがわかり、世界的には撤退が続き斜陽産業です。

ウラにつづきます⇒

しかし日本では、高速増殖炉「もんじゅ」が止まって15年になるのですが、年間200億円（毎日5500万円）がついやされ続けています。

使用済み燃料の再利用と宣伝されているプルサーマルも、実際に使用されるプルトニウムはほんの数パーセントで、予想される事故のほうがよっぽど高くなります。

もうひとつ、原発のエネルギーの内、発電に使われるのは約三割、それ以外は温排水として捨てられます。ある人は原発を「海水温上昇装置」とっています。



電機メーカーの利権独占

原発がいまだに日本で進められているのは、八ツ場ダム为例を出すまでもなく「利権」であることは、容易に理解できます。東芝と日立という巨大な電機メーカーが日本のエネルギー政策を独占しているのです。

温暖化に有効と思われるのは世界トップレベルの日本の省エネ技術の世界的な拡大や、火山国日本の「資源」である地熱をヒートパイプという技術で利用することなどが考えられますが、原発優先の日本では、国の政策レベルのものではありません。

民主党政権になってから前原外務大臣が電機メーカーと一緒にあって、ヴェトナムなどアジアへの原発売り込みをしています、とんでもない未来につながります。